



あの夏の絵

福山啓子 作・演出

【美】 術 石井強司

【照】 明 河崎浩

【選】 曲 堀沢広幸

【音響効果】 石井隆

【衣】 装 宮岡増枝

【演出助手】 清原達之

【舞台監督】 松橋秀幸

【製作】 作 広瀬公乃

【製作助手】 白木匡子

【出演】

藤井美恵子

広戸聡

永田江里

藤代梓

傍島ひとみ

津曲海七斗



こんなにも知らなかった
ということ
初めて知った

あの夏の絵

福山啓子 作・演出

【あらすじ】
被爆者を祖父母に持つ高校二年の恵は、美術部員。被爆証言を絵にする活動に応募することにした。初めて目の前で、少人数で聞く被爆者の証言は「体験」として胸に迫った。はじめは乗り気でなかった部員たちも証言を聞いて変わっていく。でも、見たこともないものを絵に描くのは想像以上に大変な作業だった……

被爆から70年たって、
記憶を伝え残すために語り始めた被爆者と、
それを受けとめ、絵に表現することに挑んだ
高校生たちの2015年夏の物語。
各地で観客を感動の渦に巻き込み、
全国公演中！

被爆者の集会で、初めて広島市立基町高校創造表現科の生徒による「原爆の絵」を見た時は、「被爆者の描いた絵?」と思いました。それほど迫力に満ちた絵でした。どうしてこのような絵が描けるのか、というのが取材を始めるきっかけでした。その後現地へ何度も伺う中で知ったのは、半年をかけて被爆者から被爆前後の経験とその後の人生まで丹念に話を聞き、現場へ足を運び、資料を調べ、繰り返し被爆者と話し合い、時には涙しながら、悪夢を見ながら、「被爆者の手になって絵を描こう」と真摯に向き合う高校生たちの姿でした。彼らは「原爆の怖さ」でなく「原爆の記憶が消えていくことの怖さ」を心に刻みながら絵を描いていたのです。

記憶を語り継ぐ—その輪の中に、皆様とともに加われたらと願っています。

福山啓子

(ふくやまけいこ)

東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒。1980年入団。文芸演出部所属。

2006年初演の「博士の愛した数式」で脚本・演出を担当、児童福祉文化賞(厚生労働大臣賞)を受賞。他に「野球部員、舞台上立つ!」(脚本・演出)、「田畑家の行方」(演出)、「梅子とよっちゃん」(脚本)、「つながりのレシピ」(脚本)「囲まれた文殊さん」(脚本)。

(出演)

CAST



藤井美恵子



広戸聡



永田江里



藤代梓



傍島ひとみ



津曲海斗斗



公演の反響より

原爆を絵であらわすなんて、すごいと思いました。私は、こんなにすごい絵をかいたことがないので、いつか実際にかいてみたいです。「平和」とはなんだろう、ということを考えられました。(横浜公演にて・12才)

戦争を体験した人が少なくなっていくこの時代に、体験した事のない私たちが今後どのようにして後世に戦争の悲惨さ、醜さ、無を伝えて行けばいいのか、私たちに課された課題だと思っています。(中学校 教員)

原爆、戦争、それらを歴史上の事実として現代の高校生につなげる。現実の絵を観て、事実の重みを感じた。東京から来た高校生の「何で知らなかったのだろう」の戸惑い。その心を受けとめ、何とか一緒に活動しようとする恵。恵のやさしさが三人の制作を支えた。世代を超えて記憶に伝える作品。若者に歴史を伝える意味と歴史を共有する意味。今こそ、若者に伝えたい内容でした。(東京公演にて・71才)



(舞台写真2枚) 撮影:V-WAVE

秋田県 秋田大学 記念 青年劇場

〒160-0022東京都新宿区新宿2-9-20 間川ビル4F
TEL 03(3352)6990 FAX 03(3352)9418

info@seinengekijo.co.jp

https://www.seinengekijo.co.jp

2022年12月16日(金) 19:00 開演 (18:30 開場) 21:00 終演

つくばカピオ ホール

つくば市竹園 1-10-1 (TX つくば駅徒歩 10分)

お車でお越しの方は付近の有料駐車場をご利用ください

チケット ● 一般 3,000 円 / 大学生以下 1,500 円

障害者手帳をお持ちの方 1,500 円
介助者 1 名無料

中高生無料招待チケット(先着 100 名) ※全席自由



お問合せ・チケットお申込み つくば子ども劇場

Tel 029-852-9134(平日 12 時~15 時) E-mail 298kodomogekijo@gmail.com

チケット申込フォーム

主催 ● 「あの夏の絵」を観る会 後援 ● つくば市教育委員会 協力 ● つくば子ども劇場 / 憲法 9 条の会つくば / つくば市平和委員会 / 新日本婦人の会つくば支部 / えほんやなずな / 常総生協